

水(川)を正しく恐れ、歴史に学び、水に親しむまちの暮らしを続けるために

遺跡の保全と水害を考える

主催：石見銀山みらいコンソーシアム

共催：大森まちづくりセンター・大森町自主防災会

世界遺産でもある大森町の大きな特徴の一つは、町の中を「川」が通っていることです。普段は町の用水でもあり、川遊びの場でもありますが、川や溝からあふれる水は住宅を浸水させ、時に護岸や橋を流します。80年前の水害では人命も奪われました。

近年、水害の危険度は年々上がっており、避難しなければならない降水や川の水位の上昇もありました。大森町並み討論集会でまとめたデータによれば銀山川は、羅漢町橋で豪雨の降り始めから46分、三石谷川は羅漢寺付近で降り始めから26分で川の水が橋を超えるとの推計値が出ています。

川を良く知り、水害を正しく恐れ、水に親しむ世界遺産のまちであり続けるために共に学び・考えようと下記の会合を企画しました。ぜひご参加ください。

記

日 時：4月14日（日）午後1時30分～午後3時（開場午後1時）

会 場：大森町 町並み交流センター 多目的ホール

内 容：（1）下間久美子先生のお話

國學院大學教授、日本イコモス副委員長、元文化庁主任文化財調査官として町並み保存地区や世界遺産の保全と防災・安全の専門家の立場から「文化財を大切にしつつ、町並みと暮らしを守ること」に関する事例を紹介頂きます

（2）パネルディスカッション・意見交換

高田龍一先生（松江高専名誉教授／環境・建設工学、市伝建審議会委員、主に防災を担当）と下間久美子先生を助言者に、みらいコンソーシアム会員が意見を述べ、参加者と一緒に意見交換を行います。

今回は特に町内の橋（羅漢町橋や京信寺橋）と護岸、川床などについて取り上げます。